

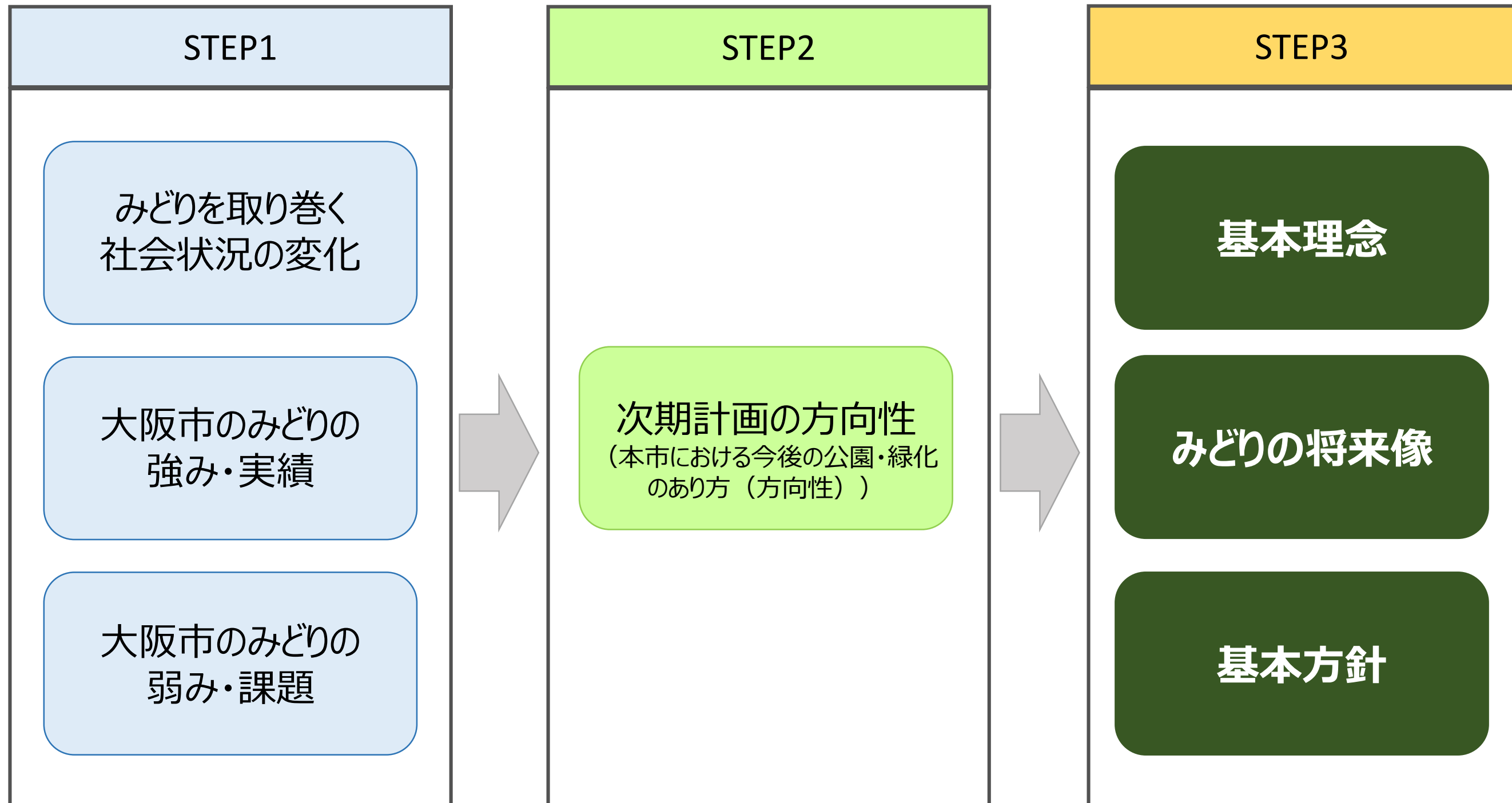
前回の振り返りと今後の公園緑化の方向性について

1. 前回の審議会の振り返り
2. 社会変化や大阪市の強み・弱みを踏まえた今後の施策

(参考資料) 緑の基本計画改定ステップ

緑の基本計画の改定は、次のステップで進めていく。

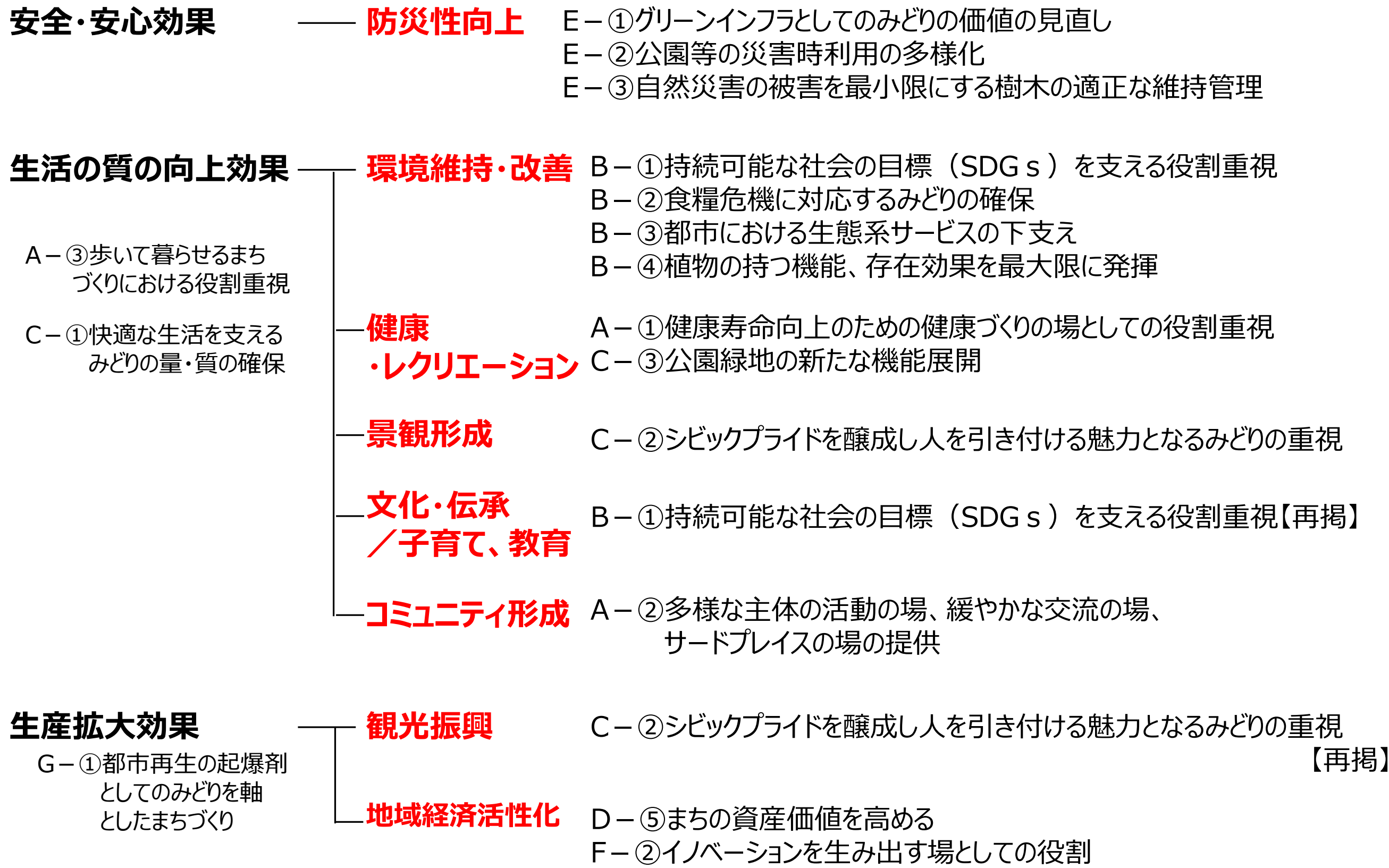
今年度はSTEP 1 及びSTEP 2 を中心に議論し、STEP 3 の検討につなげていく。



1. 前回審議会の振返り

議論した内容①

国が示す公園のストック効果の分類等を参考にしながら近年みどりに求められる役割を整理し、下記の資料をもとに意見交換を行った。



1. 前回審議会の振返り

議論した内容①

国が示す公園のストック効果の分類等を参考にしながら近年みどりに求められる役割を整理し、下記の資料をもとに意見交換を行った。

※ 前ページの機能のほか、機能の可視化や維持などに寄与する内容も次の通り整理し、意見交換を行った。

機能の見える化

D－④公園整備および管理運営における社会・経済効果実証の重視

機能の維持

D－①公園緑地施設の長寿命化、適切な維持管理

D－②日常メンテナンスの重視

機能を向上させるための新たな方策

D－③既存公園再編、活性化の視点重視

F－①新しい技術を活用したみどりの創造、みどりを活かした技術開発、社会実験の展開

1. 前回審議会の振返り

議論した内容②

現行計画で示している今後の公園・緑化のあり方（方向性）を踏まえながら、次期計画における方向性に盛り込むべき視点等について意見交換を行った。

参考：大阪市における今後の公園・緑化のあり方（方向性）

あり方1

みどりの既存ストックの活用と多様なみどりの確保による「みどりのベースアップ」（“みどりの都市”への成長）

みどりの持つ多様な機能がこれまで以上に求められている一方、成熟した市街地において、従来までの地表面の量的充足中心の観点で、みどりやオープンスペースを増やしていくことは、非常に難しい状況となってきています。そのため、これまで創出・保全してきたソフト・ハードからなるみどりの既存ストックを貴重な都市資源として活かしつつ、今後も多様な主体・手法・創意工夫による「みどりのベースアップ」が必要となります。

あり方2

都市の個性・イメージ・魅力の向上につながる「大都市ならではのみどりの創出」（“みどりの都市”イメージの構築・発信）

都市の持続的な成長が求められる中で、効果的な都市の個性・イメージの構築と都市魅力の向上は非常に重要な要素となります。そのため、大阪市のような大都市においては、より分かりやすい重点的・戦略的なみどりの取組みが今まで以上に重要となってきており、大阪市のまちづくりにおいても、都市の個性・都市イメージ・都市魅力につながるみどりの取組みの展開が必要となります。

あり方3

市民・事業者が主体的にみどりのまちづくりを担う受け皿や仕組みづくり、展開（“みどりの都市”を実現する仕組み（受け皿）づくり）

従来の「行政主導のまちづくり」から、市民・事業者の知恵や力を取り入れ、かつ自律した市民社会形成にもつながる「それぞれが主体となったまちづくり」への転換が重要になってきます。今ある制度を最大限に活用するとともに、市民・事業者・行政が責務・役割を共有しながら、大阪のみどりのまちづくりを主体的・一体的に取り組んでいける新たな仕組みづくりと展開が必要となります。

1. 前回審議会の振返り

① みどりの効果・機能等について

- 「国が示す公園のストック効果の分類等を参考にしながら、みどりの機能別等に分類した」とあるが、大阪市ならではの視点として、分類できない機能が将来にわたって重要。
- 地球環境への負荷の低減と同時に、食糧供給やバイオマスとしてのエネルギー供給をしていくことは大都市では必要。
- みどりは存在・利用・媒体効果が複雑に絡み合っているので、一概に当てはめるだけでは理解しにくい。効果と機能の概念整理ができると良い。
- 存在・利用効果はオンサイト効果であり、媒体効果は存在することによって周辺地域がどう変わっていくかというオフサイト効果であると考える。都市間競争では媒体効果、オフサイト効果をどのように展開していくのかが非常に重要。みどりの機能の分類や役割については、再整理する方向性で考えては。

② 今後の公園・緑化のあり方（方向性）について

- あり方3では、住民主体では共生とは言えず、市民と行政のパートナーシップをもって展開していく手法を考える必要がある。あり方2の都市の個性・魅力については、都市間競争の中でオンリーワン都市を目指す方向性が重要。オンリーワンを目指すのであれば、自然環境と歴史文化をベースに探っていく必要があり、特にオフサイト効果が重要な部分。
- みどりにおいても、よりイノベティブなまちにしていく必要がある。多様性のあるところに多くの人々が集まり、人々が集まる場所にイノベーションが生まれるという観点を盛り込むと良い。
- 市民・事業者の参画は必要であるが、リードは行政がする必要があると思う。

2. 社会変化や大阪市の強み・弱みを踏まえた今後の施策

【前回の議論】

- 社会情勢の変化を踏まえ、近年みどりに求められる機能や役割を議論した。
- 今後の公園緑化のあり方の方向性を議論した。

【今回の議論】

- 今後の公園緑化のあり方を取りまとめるにあたっては、もう少し具体的に大阪市の強みや弱みを踏まえた分析を実施し、今後の施策として何を重点的に実施するべきかを議論すべき。

**前回までに議論した「みどりを取り巻く社会変化」に加え、
「大阪市のみどりのまちづくりにおける強み・弱み」も踏まえ、
今後の施策について検討する。**

【検討の方法】

- 「みどりを取り巻く社会変化」については、前回までにまとめた社会情勢の変化（本資料P 3～4）も踏まえ改めて整理した。
- 「大阪市のみどりのまちづくりにおける強み・弱み」については、これまでのみどりのまちづくりにおける大阪市の強み・実績と弱み・課題を抽出した。
- 上記を踏まえ、(1) 安全・安心効果、(2) 生活の質の向上効果、(3) 生産拡大効果、(4) (1)～(3)に分類されない新たな観点 の4つを切り口として、

I 継続的に実施すべき取組み（継続）

II これまでの取組みに対する方向性の転換や視点の追加が必要な取組み（見直し）

III これまでには無い新たな視点に基づく取組み（新規） を整理した。

2. 社会変化や大阪市の強み・弱みを踏まえた今後の施策

(1) 安全・安心効果

【キーワード※】防災性向上

※ 出典：「都市公園のストック効果向上に向けた手引き」（国土交通省）

みどりを取り巻く主な社会変化

- 自然災害の激甚化
- 平均気温の上昇
- 食糧供給の不安
- 低未利用地の増加
- グリーンインフラの波及
- コロナ禍におけるオープンスペースの重視

大阪市のみどりのまちづくりにおける強み・実績

- 一時避難場所となる身近な公園が市域全域に配置されるよう、公園整備を進めてきた。

大阪市のみどりのまちづくりにおける弱み・課題

- 高度に都市化されているため、都市型災害（ゲリラ豪雨、急激な増水など）のリスクが高い。
- 植栽基盤の制約などにより、延焼防止・保水機能の低下、倒木等による被害が懸念される。

継続

自然災害の激甚化が進む中、安全・安心なみどりを今後も確保していくことが必要。

見直し

都市型災害のリスクや自然災害以外の脅威（コロナ禍・食糧危機など）も懸念される中、幅広い都市課題に対応するために、次の観点などについて検討が必要。

✓ **グリーンインフラ**の概念 ✓ **レジリエントなまちづくり**に寄与するみどり

2. 社会変化や大阪市の強み・弱みを踏まえた今後の施策

(2) 生活の質の向上効果

【キーワード※】環境維持・改善、健康・レクリエーション、景観形成、文化・伝承／子育て・教育、コミュニティ形成 ※ 出典：「都市公園のストック効果向上に向けた手引き」（国土交通省）

みどりを取り巻く主な社会変化

- SDGsの波及 ●生物多様性への警鐘 ●脱炭素社会の推進 ●ライフスタイルの多様化
- ポストコロナにおける生活空間の重視 ●健康への関心の高まり ●公園ストックの再編
- 生活の場の都心回帰 ●将来的な人口減少・少子高齢化

大阪市のみどりのまちづくりにおける強み・実績

- 緑化100年宣言以降、公園整備や公有地・民有地の緑化などによりみどりを拡大させてきた。

大阪市のみどりのまちづくりにおける弱み・課題

- 公園施設の老朽化が進んでおり、また身近な公園の機能が地域によらず画一的になっている。

継続

都市の環境・景観を下支えするみどりの保全・形成や、生物多様性や脱炭素社会に寄与するみどりの質の向上などが今後も必要。

見直し

都心回帰が進み、ポストコロナにおいて生活空間が重視される中、健康増進やソーシャルキャピタルなどへの市民ニーズに応えるため、次の観点などについて検討が必要。

- ✓ **サードプレイス**としてのみどり
- ✓ 地域の特性やニーズに合わせた**公園機能の再編**

2. 社会変化や大阪市の強み・弱みを踏まえた今後の施策

(3) 生産拡大効果

【キーワード※】観光振興、地域経済活性化

※ 出典：「都市公園のストック効果向上に向けた手引き」
(国土交通省)

みどりを取り巻く主な社会変化

- 都市間競争の高まり
- ICT・Society5.0の波及
- 都市開発事業の進展・拡大
- 都市整備・再生のシンボルとしてのみどりの活用
- 多様な主体と連携した社会づくりの推進

大阪市のみどりのまちづくりにおける強み・実績

- 上町台地や大阪城公園など、大阪の歴史・文化が感じられる貴重なみどりが存在している。
- 大阪・関西最大の大都市であり、みどりのまちづくりに携わる多様な人材が集まる。
- 民間活力の導入による都市公園の魅力向上を図り、観光・集客効果を高めてきた。
- 屋上・壁面緑化など、先進的な都市緑化を推進してきた。

継続

大阪らしさを感じられる特徴的なみどりの保全や、都市開発などに合わせた大都市ならではのみどりの創出を今後も進めていくことが必要。

見直し

ICT・Society5.0の波及が進む中、多様な人材が集まる大都市の強みも活かし、みどりに関する多様な試みを推進するために、次の観点などについて検討が必要。

✓ **イノベーションを生み出すみどり**

2. 社会変化や大阪市の強み・弱みを踏まえた今後の施策

(4) 新たな観点 **新規**

みどりを取り巻く主な社会変化

- ICT・Society5.0の波及【再掲】
- 多様な主体と連携した社会づくりの推進【再掲】
- 都市整備・再生のシンボルとしてのみどりの活用【再掲】
- 多様な財源活用

大阪市のみどりのまちづくりにおける強み・実績

- 緑化100年宣言以降、公園整備や公有地・民有地などによりみどりを拡大させてきた。【再掲】

大阪市のみどりのまちづくりにおける弱み・課題

- 量的に拡大させてきたみどりを効率的に維持管理する手法・仕組みが求められる。
- 都市における社会的・経済的なみどりの価値が定量化されていないため、みどりの重要性を十分に発信できていない（価値が見えやすい他のインフラなどが優先される傾向にある）。



みどりの効果発現に必要な資源（人材・資金など）を呼び込み、さらなる効果発現につなげていくために、次の観点などについて検討が必要。

- ✓ **持続可能なみどりストックの維持管理**
- ✓ **人中心のまちづくりに貢献するみどりの創出、利活用**
- ✓ **社会的・経済的なみどりの価値の見える化**
- ✓ **みどりの魅力や価値に関する積極的な情報発信**
- ✓ **デジタル技術の利活用**

(参考資料) 都市公園のストック効果向上に向けた手引き

(3) 都市公園のストック効果

○都市公園は多様な機能を有しているため、そのストック効果も多様であるが、本手引きでは、既存の都市公園等の価値の例などを参考に、都市公園のストック効果を以下の9つに分類、整理する。

社会資本のストック効果

安全・安心効果

地震、津波、洪水等への災害安全性を向上させ、安全・安心を確保する効果

本手引きにおける都市公園のストック効果分類

①防災性向上効果

災害発生時の避難地、防災拠点等となることによって都市の安全性を向上させる効果

②環境維持・改善効果

生物多様性の確保、ヒートアイランドの解消等の都市環境の改善をもたらす効果

③健康・レクリエーション空間提供効果

健康運動、レクリエーションの場となり心身の健康増進等をもたらす効果

④景観形成効果

季節感を享受できる景観の提供、良好な街並みの形成効果

⑤文化伝承効果

地域の文化を伝承、発信する効果

⑥子育て、教育効果

子どもの健全な育成の場を提供する効果

⑦コミュニティ形成効果

地域のコミュニティ活動の拠点となる場、市民参画の場を提供する効果

⑧観光振興効果

観光客の誘致等により地域の賑わい創出、活性化をもたらす効果

⑨経済活性化効果

企業立地の促進、雇用の創出等により経済を活性化させる効果

生活の質の向上効果

衛生状態の改善、生活アメニティの向上などの生活水準の向上に寄与し、生活の質を高める効果

生産拡大効果

移動時間の短縮、輸送費の低下等によって経済活動の生産性を向上させ、経済成長をもたらす効果

都市公園等の価値の例

都市における公園緑地の意義 (出典:公園緑地マニュアル)

- ①人と自然が共生する都市環境の形成に寄与する(環境保全)
- ②生物の多様性を育み、四季の変化が織りなす美しい潤いのある景観を形成する(景観形成)
- ③災害防止、災害時の避難地、救助救命・休園活動の拠点としての機能により、都市の防災性、安全性の確保に寄与する(防災)
- ④都市住民の多様な余暇活動や健康増進活動を支える場を提供する(レクリエーション)

緑の主要な機能 (出典:新編 緑の基本計画ハンドブック)

【主要な機能】環境保全、レクリエーション、防災、景観形成
【その他の機能】自然環境教育機能、中心市街地活性化機能、観光機能、産業振興機能、健康福祉機能、子育て・情報交換の場

Urban park benefits

(出典:Benefits of Urban Park(IFPRA,2013))

- ①健康、②社会的結束(コミュニティ)、③観光、④住宅の価格
- ⑤生物多様性、⑥大気浄化と炭素固定、⑦水管理、⑧都市冷却

都市公園整備によって生じる価値の例

(出典:大規模公園費用対効果分析手法マニュアル)

- ①健康・レクリエーション空間の提供:健康促進、心理的な潤いの提供、レクリエーションの場の提供、文化的活動の基礎、教育の場の提供等
- ②都市環境維持・改善:動植物の生息・生育環境の保存、ヒートアイランド現象の緩和、二酸化炭素の吸収、騒音軽減等
- ③都市景観:季節感を享受できる景観の提供、都市形態規制
- ④都市防災:洪水調整、火災延焼防止・遅延、災害時の避難地確保、救援活動の場の確保、復旧・復興の拠点の確保等

※それぞれの効果は相互に関連しており、厳密に分けられるものではない